

- 凡例**  
 浸水した場合に想定される水深(ランク別)
- 20 ~
  - 10 ~ 20
  - 5 ~ 10
  - 3 ~ 5
  - 0.5 ~ 3
  - ~ 0.5
- 水害危険情報 計算対象区間  
 洪水浸水想定区域図 検討対象区間  
 小里川ダム下流浸水想定図 計算対象区間  
 市町村界

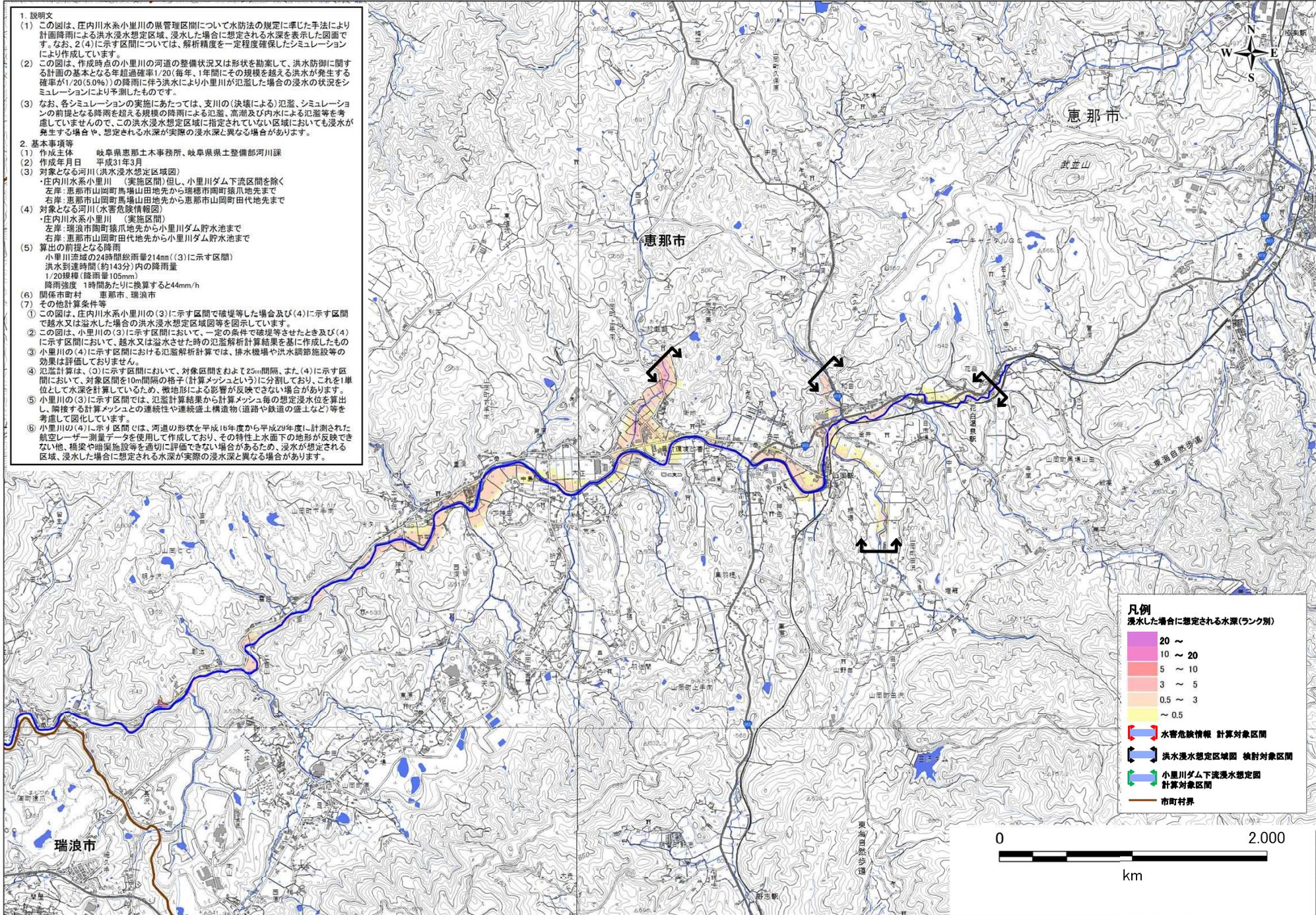
1. 説明文  
 (1) この図は、庄内川水系小里川の異管轄区間について水防法の規定に準じた手法により計画降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。なお、2(4)に示す区間については、解析精度を一定程度確保したシミュレーションにより作成しています。  
 (2) この図は、作成時点の小里川の河道の整備状況又は形状を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率1/20(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/20(5.0%)の降雨に伴う洪水により小里川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。  
 (3) なお、各シミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合は、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2. 基本事項等  
 岐阜県恵那土木事務所、岐阜県農土整備部河川課  
 (1) 作成年月日 平成31年3月  
 (2) 対象となる河川(洪水浸水想定区域図)  
 ・庄内川水系小里川(実施区間)但し、小里川ダム下流区間を除く  
 左岸 恵那市山岡町馬場山田地先から瑞穂市陶町猿爪地先まで  
 右岸 恵那市山岡町馬場山田地先から恵那市山岡町田代地先まで  
 対象となる河川(水害危険情報図)  
 ・庄内川水系小里川(実施区間)  
 左岸 瑞浪市陶町猿爪地先から小里川ダム貯水池まで  
 右岸 恵那市山岡町田代地先から小里川ダム貯水池まで  
 (5) 算出の前提となる降雨  
 小里川流域の24時間総降雨量214mm(3)に示す区間)  
 洪水到達時間(約143分)内の降雨量  
 1/20規模(降雨量105mm)  
 降雨強度 1時間あたりに換算すると44mm/h  
 (6) 関係市町村 恵那市、瑞浪市  
 (7) その他計算条件等  
 ① この図は、庄内川水系小里川の(3)に示す区間で破壊等した場合及び(4)に示す区間で越水又は溢水した場合の洪水浸水想定区域図等を図示しています。  
 ② この図は、小里川の(3)に示す区間において、一定の条件で破壊等させたとき及び(4)に示す区間において、越水又は溢水させた時の氾濫解析計算結果を基に作成したものです。  
 ③ 小里川の(4)に示す区間における氾濫解析計算では、排水機場や洪水調節施設等の効果は評価していません。  
 ④ 氾濫計算は、(3)に示す区間において、対象区間を約25m間隔、また(4)に示す区間において、対象区間を10m間隔の格子(計算メッシュという)に分割しており、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。  
 ⑤ 小里川の(3)に示す区間では、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図示しています。  
 ⑥ 小里川の(4)に示す区間では、河道の形状を平成16年度から平成29年度に計測された航空レーザー測量データを使用して作成しており、その特性上水面下の地形が反映できない他、橋梁や埋設施設等を適切に評価できない場合があります。浸水が想定される区域、浸水した場合に想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

(ダム下流) 浸水想定図を参照

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図20万を使用した。(承認番号 平30情使、第1586号)

1. 説明文
- (1) この図は、庄内川水系小里川の異管理区間について水防法の規定に準じた手法により計画降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。なお、2(4)に示す区間については、解析精度を一定程度確保したシミュレーションにより作成しています。
  - (2) この図は、作成時点の小里川の河道の整備状況又は形状を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率1/20(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/20(5.0%))の降雨に伴う洪水により小里川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
  - (3) なお、各シミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前堤となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合があります、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
2. 基本事項等
- (1) 作成主体 岐阜県恵那土木事務所、岐阜県土木整備部河川課
  - (2) 作成年月日 平成31年3月
  - (3) 対象となる河川(洪水浸水想定区域図)
    - ・庄内川水系小里川 (実施区間)但し、小里川ダム下流区間を除く
    - 左岸: 恵那市山岡町馬場山田地先から瑞穂市岡町猿爪地先まで
    - 右岸: 恵那市山岡町馬場山田地先から恵那市山岡町田代地先まで
  - (4) 対象となる河川(水害危険情報図)
    - ・庄内川水系小里川 (実施区間)
    - 左岸: 瑞浪市岡町猿爪地先から小里川ダム貯水池まで
    - 右岸: 恵那市山岡町田代地先から小里川ダム貯水池まで
  - (5) 算出の前堤となる降雨
    - 小里川流域の24時間総雨量214mm(3)に示す区間)
    - 洪水到達時間(約143分)内の降雨量
    - 1/20規模(降雨量105mm)
    - 降雨強度 1時間あたり換算すると44mm/h
  - (6) 関係市町村 恵那市、瑞浪市
  - (7) その他計算条件等
    - ① この図は、庄内川水系小里川の(3)に示す区間で破堤等した場合及び(4)に示す区間で越水又は溢水した場合の洪水浸水想定区域図等を図示しています。
    - ② この図は、小里川の(3)に示す区間において、一定の条件で破堤等させたとき及び(4)に示す区間において、越水又は溢水させた時の氾濫解析計算結果を基に作成したものです。
    - ③ 小里川の(4)に示す区間における氾濫解析計算では、排水機場や洪水調節施設等の効果は評価していません。
    - ④ 氾濫計算は、(3)に示す区間において、対象区間を概ね25m間隔、また(4)に示す区間において、対象区間を10m間隔の格子(計算メッシュという)に分割しており、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
    - ⑤ 小里川の(3)に示す区間では、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。
    - ⑥ 小里川の(4)に示す区間では、河道の形状を平成16年度から平成29年度に計画された航空レーザー測量データを使用して作成しており、その特性上水面下の地形が反映できない他、橋梁や暗渠施設等を適切に評価できない場合があるため、浸水が想定される区域、浸水した場合に想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

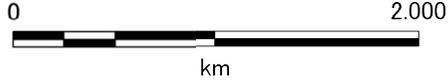


**凡例**

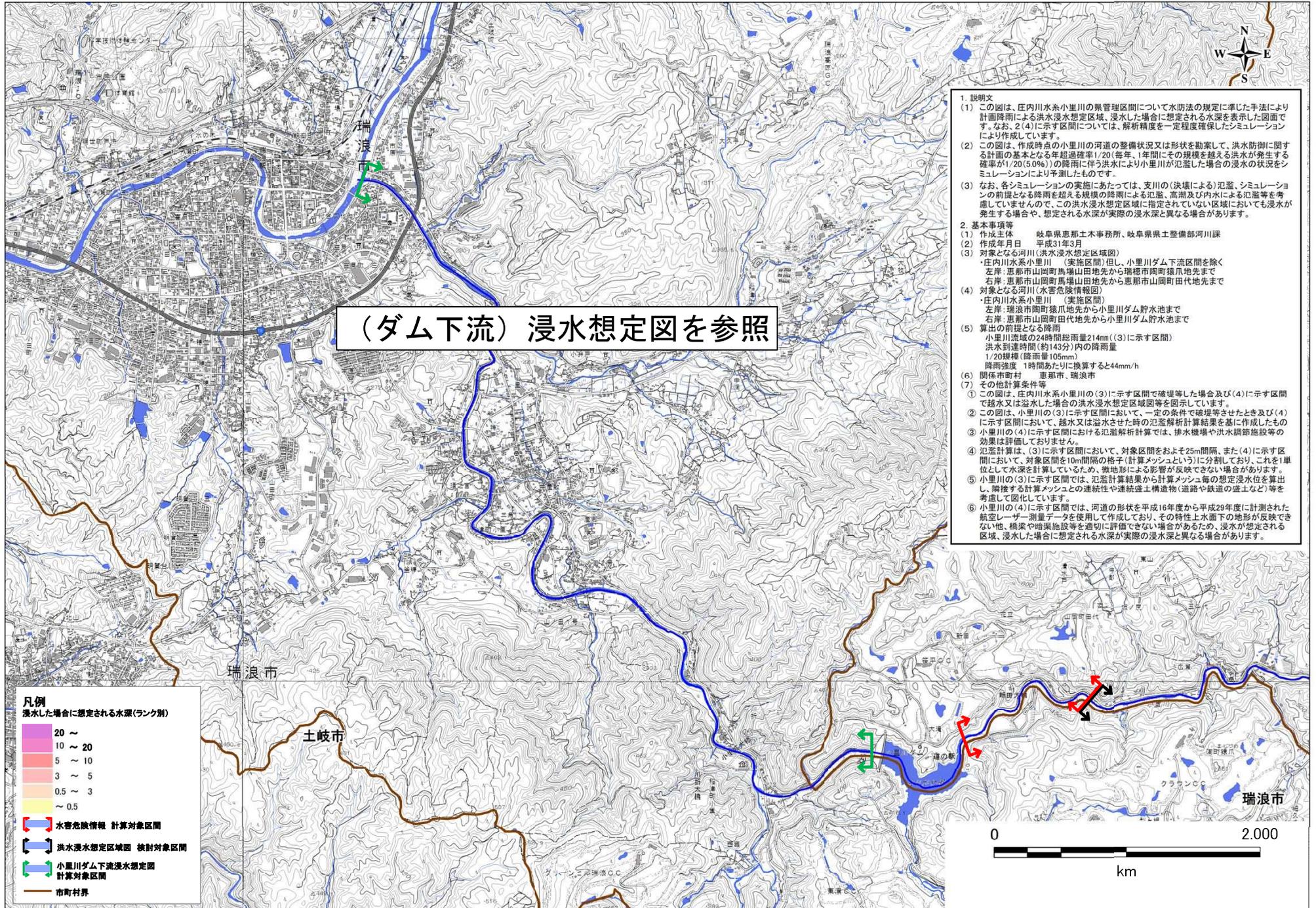
浸水した場合に想定される水深(ランク別)

20 ~
10 ~ 20
5 ~ 10
3 ~ 5
0.5 ~ 3
~ 0.5

水害危険情報 計算対象区間  
 洪水浸水想定区域図 検討対象区間  
 小里川ダム下流浸水想定区域図 計算対象区間  
 市町村界



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を使用した。(承認番号 平30情使、第1586号)

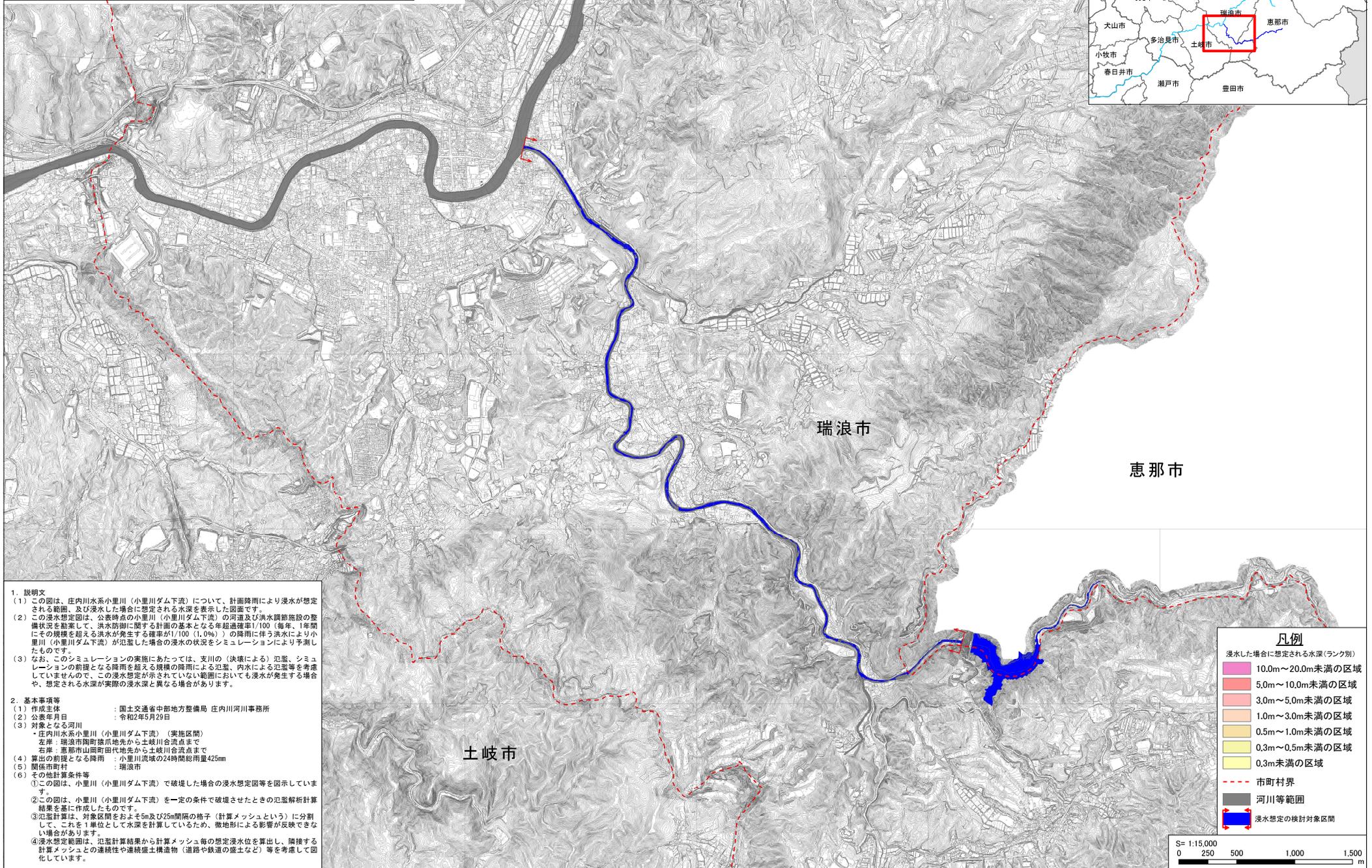


1. 説明文
- (1) この図は、庄内川水系小里川の県管理区間について水防法の規定に準じた手法により計画降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。なお、(2) (4) に示す区間については、解析精度を一定程度確保したシミュレーションにより作成しています。
  - (2) この図は、作成時点の小里川の河道の整備状況又は形状を勘案して、洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率1/20(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/20(5.0%))の降雨に伴う洪水により小里川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
  - (3) なお、各シミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前段となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮してまいりました。この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
2. 基本事項等
- (1) 作成主体 岐阜県恵那土木事務所、岐阜県県土整備部河川課
  - (2) 作成年月日 平成31年3月
  - (3) 対象となる河川(洪水浸水想定区域図)
    - ・庄内川水系小里川(実施区間)但し、小里川ダム下流区間を除く
    - 左岸: 恵那市山岡町馬場山田地先から瑞穂市岡町猿ノ地先まで
    - 右岸: 恵那市山岡町馬場山田地先から恵那市山岡町田代地先まで
  - (4) 対象となる河川(水害危険情報図)
    - ・庄内川水系小里川(実施区間)
    - 左岸: 瑞浪市野間猿ノ地先から小里川ダム貯水池まで
    - 右岸: 恵那市山岡町田代地先から小里川ダム貯水池まで
  - (5) 算出の前提となる降雨
    - 小里川流域の24時間総雨量214mm((3)に示す区間)
    - 洪水到達時間(約143分)内の降雨量
    - 1/20規模(降雨量105mm)
    - 降雨強度 1時間あたり換算すると44mm/h
  - (6) 関係市町村 恵那市、瑞浪市
  - (7) その他計算条件等
    - ① この図は、庄内川水系小里川の(3)に示す区間で破堤等した場合及び(4)に示す区間で越水又は浸水した場合の洪水浸水想定区域等を図示しています。
    - ② この図は、小里川の(3)に示す区間において、一定の条件で破堤等させたとき及び(4)に示す区間において、越水又は溢水させた時の氾濫解析計算結果を基に作成したものです。
    - ③ 小里川の(4)に示す区間における氾濫解析計算では、排水機場や洪水調節施設等の効果は評価していません。
    - ④ 氾濫計算は、(3)に示す区間において、対象区間をおよそ25m間隔、また(4)に示す区間において、対象区間を10m間隔の格子(計算メッシュという)に分割しており、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
    - ⑤ 小里川の(3)に示す区間では、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。
    - ⑥ 小里川の(4)に示す区間では、河道の形状を平成16年度から平成29年度に計測された航空レーザー測量データを使用して作成しており、その特性と水面下の地形が反映できない地、橋梁や暗渠施設等を適切に評価できない場合があるため、浸水が想定される区域、浸水した場合に想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

- 凡例
- 浸水した場合に想定される水深(ランク別)
- 20 ~
  - 10 ~ 20
  - 5 ~ 10
  - 3 ~ 5
  - 0.5 ~ 3
  - ~ 0.5
- 水害危険情報 計算対象区間
  - 洪水浸水想定区域図 検討対象区間
  - 小里川ダム下流浸水想定図 計算対象区間
  - 市町村界

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を使用した。(承認番号 平30情使、第1586号)

# 庄内川水系小里川(ダム下流)浸水想定図 (計画規模)



1. 説明文  
 (1) この図は、庄内川水系小里川(小里川ダム下流)について、計画降雨により浸水が想定される範囲、及び浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。  
 (2) この浸水想定図は、公表時点の小里川(小里川ダム下流)の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、洪水防衛に関する計画の基本となる年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1.0%)の降雨に伴う洪水により小里川(小里川ダム下流)が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。  
 (3) なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定が示されていない範囲においても浸水が発生する場合があります。想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2. 基本事項等  
 (1) 作成主体 : 国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所  
 (2) 公表年月日 : 令和2年5月29日  
 (3) 対象となる河川  
 ・庄内川水系小里川(小里川ダム下流)(実施区間)  
 左岸: 瑞浪市陶町猿爪地先から土岐川合流点まで  
 右岸: 恵那市山岡町田代地先から土岐川合流点まで  
 (4) 算出の前提となる降雨 : 小里川流域の24時間総雨量425mm  
 (5) 関係市町村 : 瑞浪市  
 (6) その他計算条件等  
 ①この図は、小里川(小里川ダム下流)で破壊した場合の浸水想定図等を図示しています。  
 ②この図は、小里川(小里川ダム下流)を一定の条件で破壊させたときの氾濫解析計算結果を基に作成したものです。  
 ③氾濫計算は、対象区間をおよそ5m及び25m間隔の格子(計算メッシュという)に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。  
 ④浸水想定範囲は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水深を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続体土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。

凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)	
	10.0m~20.0m未満の区域
	5.0m~10.0m未満の区域
	3.0m~5.0m未満の区域
	1.0m~3.0m未満の区域
	0.5m~1.0m未満の区域
	0.3m~0.5m未満の区域
	0.3m未満の区域
	市町村界
	河川等範囲
	浸水想定区間の検討対象区間

